

Ⅱ. 金属工作機械

1. 企業経営動向（需要、生産・設備稼働、企業収益、財務）

(1) 需要

①現状及びその要因

需要は内需主導で回復し、平成12年度受注額（出典：（社）日本工作機械工業会統計）は9,975億円、対前年度比27.7%増と3年振りの増加となった。内需については、半導体製造装置や情報通信といったIT関連産業における設備投資が好調に推移し、5,352億円、対前年度比41.0%増と3年振りの増加となり、外需については、主要な輸出先である米国、アジア及び欧州向けが好調に推移し、4,623億円、対前年度比15.2%増と3年振りの増加となった。

②今後の見通し

（社）日本工作機械工業会によると、平成13年に入りIT関連産業向けを中心に内需の伸び率が鈍化するとともに、米国経済の減速により米国向け及び米国経済への依存度の高いアジア向けが減少するが、国内における80年代後半から90年代始めに設備された工作機械の老朽化に伴う更新需要には根強いものがあり、米国経済も本年後半には回復するものと見込まれていることから、平成13年度受注額は1兆円を超えるものと見込んでいる。

(2) 生産・在庫

平成12年度の生産額（出典：経済産業省生産動態統計）は、需要が内外需ともに好調に推移したため、8,655億円と対前年度比19.6%増と3年振りの増加となった。

在庫（出典：経済産業省生産動態統計）は、需要が好調で減少傾向にあったが、平成13年に入り需要の伸びが急速に鈍化し、在庫も増加傾向になっている。

(3) 企業収益

平成12年度は、需要が内外需ともに好調に推移したため、ほとんどの企業が増収増益となり、主要企業9社では8社が増収増益となった。

（社）日本工作機械工業会調査の「工作機械工業経営状況調査—2000年度上期—」によると、営業利益率2.1%、経常利益率1.8%と2年振りに黒字に転換している。

2. 設備投資動向（12年度見込み、13年度計画）

(1) 平成12年度実績見込み

平成12年度は、需要が回復したものの、設備投資までは結びつかず、調査企業15社合計で104億円となった。これは125億円であった平成11年度に比べ16.6%減である。

目的別では、研究開発投資（27.7%）、更新・維持補修投資（23.1%）、合理化・省力化投資（15.7%）及び生産動力増強投資（14.3%）のウェ

イトが引き続き高くなっている。

(2) 平成13年度計画

平成13年度計画は、平成13年初から需要が急速に鈍化しており、設備投資の抑制傾向は変わらず、調査企業15社合計で108億円と計画されている。これは112億円であった平成12年度に比べ3.7%減である。

目的別では、研究開発投資、更新・維持補修投資、合理化・省力化投資、生産増強投資を中心とした構成には大きな変化が見られない。情報化投資は平成12年度に比べ18.9%の増加となっている。

3. 長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

(1) 長期資金運用動向

平成12年度は平成11年度に比べ、取得設備投資所要資金及び投融資ともに前年並みであった。

平成13年度計画も取得設備投資所要資金及び投融資ともに前年並みで計画されている。

(2) 長期資金調達動向

平成12年度は平成11年度に比べ、借入金償還増加から借入増加に転換した。

平成13年度計画では、株式は前年度並み、内部資金は増加を見込んでいるが、借入金は減少すると見込んでいる。

（グラフ1：設備投資の前年比の推移）

